

〒500-8384 岐阜県岐阜市藪田南 5-14-53 ホームページ <https://gifudeafcenter.jp/>
 県民ふれあい会館 1 棟 6 階 メールアドレス gifudeafcenter@waltz.ocn.ne.jp
 FAX:058-275-6066 TEL:058-213-6786 指定管理者:一般社団法人岐阜県聴覚障害者協会



新型コロナウイルス感染症発生から 1 年を超えました

2020年1月16日に日本国内で最初の新型コロナウイルス感染者が確認されてから、すでに1年が経過。岐阜県においても、二度の緊急事態宣言と県独自の非常事態宣言を発令するなど、日常生活においてもさまざまな影響がでた一年だったと思います。

未だ、新型コロナウイルス感染症は完全に終息したわけではなく、ワクチン接種が今後始まる予定となっており、引き続き基本的な感染予防対策は必要です。マスク着用、手洗い、3密回避などがごく当たり前の時代(新しい生活様式:ニューノーマル)となりました。

既にニュース等でご存知かと思いますが、あらためて新型コロナウイルス感染症に関連する情報などをお伝えしたいと思います。

1. マスクの効果

マスクは使用頻度が一番高い予防対策アイテムです。しかしスーパーコンピューター「富嶽」を用いたシミュレーションでは、マスクの素材によって予防効果に違いがあるという報告がされています。(参考:理化学研究所計算科学研究センター、豊橋技術科学大学)

■ マスクやフェイスシールドの効果 (スーパーコンピューター「富嶽」によるシミュレーション結果)

対策方法	なし	マスク			フェイスシールド	マウスシールド
吐き出し飛沫量	100%	20%	18-34%	50% ^{*2}	80%	90% ^{*2}
吸い込み飛沫量	100%	30%	55-65% ^{*2}	60-70% ^{*2}	小さな飛沫に対しては効果なし(エアロゾルは防げない)	

● 実験 (マスクは厚生労働省が示す正しい着用方法にもとづいています。)

さまざまな素材のマスクを着用した人頭モデルにミスト生成装置を接続し、飛沫の飛散状況をレーザー光を用いて可視化、カウントしました。吸い込み時の計測は実際に人がマスクを着用。飛沫の直径は、0.3μm(小さな飛沫)から200μm(大きな飛沫)まで計算しています。

*2 豊橋技術科学大学による実験値

「豊橋技術科学大学・全音楽譜出版社」

実験では大きく3つの素材(不織布、布、ウレタン)に分けてマスクの評価を行っています。

吐き出し飛沫量

マスクなし 100%
 不織布マスク 20%(80%遮断)
 布マスク 18~34%(66%~82%遮断)
 ウレタンマスク 50%(50%遮断)

吸い込み飛沫量

マスクなし 100%
 不織布マスク 30%(70%遮断)
 布マスク 55~65%(35%~45%遮断)
 ウレタンマスク 60~70%(30~40%遮断)

実証結果では吐き出し飛沫量、吸い込み飛沫量共にウレタンマスクの効果が低い数値が出ていますが、ウレタンマスクの予防効果も0(ゼロ)ではありません。何も着用しないよりは効果がありますし、不織布マスクが肌に合わない人もいるかもしれません。密になりやすい場所では不織布マスク、そうでない場合はウレタンマスクを使用するなど使い分けも大切です。

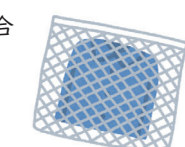
また、一般的な使い捨て不織布マスクは洗って繰り返し使うことができますが、洗うことで効果が落ちることは覚えておいてください。さらに洗い方にも注意が必要で、基本は手洗いを推奨しています。やむを得ず洗濯機を使用する場合は、洗濯ネット等に入れ「おしゃれ着モード」「手洗いモード」など水流の弱い設定で行い、脱水は行わずタオルなどで水分をふき取り陰干しをしましょう。

不織布マスクの洗濯方法

手洗い推奨



洗濯機を使う場合



洗濯ネットを利用



手洗いモードなどを使用



タオル等で水分をとり陰干し

2. 手洗いの効果

手洗いも予防対策の基本的な行動ですが、実際にどのくらいの効果があるかご存じでしょうか？

手洗いなしの状態で手に残っているウイルスが約100万個と仮定すると、石けんなどを用いて10秒もみ洗い後、流水で15秒すすぐ。これを1回行うと約0.01%（数百個に減少）、さらに2回繰り返すと約0.0001%（数個）まで減らすことができます。



およそ 100 万個

10 秒もみ洗い

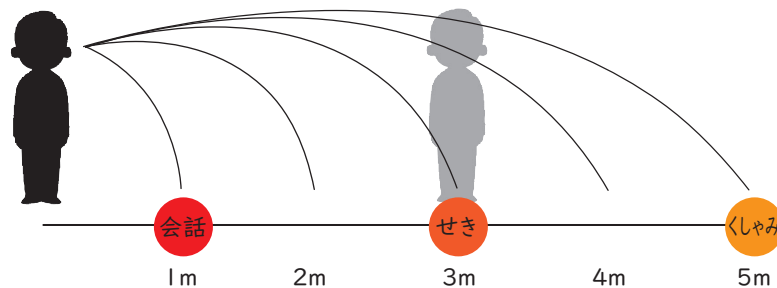


数百個にまで減少
2 回繰り返すとさらに効果的！

3. 飛沫の飛ぶ距離

ウイルス感染の経路として飛沫感染がありますが、飛沫とはどのくらい飛ぶものなのでしょうか？

これも、調査結果などが公開されており、通常の会話では1m~2m、咳をすると3m~4m、くしゃみだと5mほど飛沫が拡散します。この飛沫の中に細菌やウイルスの病原体が含まれていた場合、気道や目の粘膜などから侵入することにより感染します。これを飛沫感染と呼びます。



4. 感染経路

新型コロナウイルス感染症の主な感染経路として、接触感染と飛沫感染があげられます。飛沫感染は前述したとおりですが、接触感染はどのようにして起こるのでしょうか？

一番の理由は感染者との直接接触。また感染者がウイルスが付着した手で周りのもの（ドアノブ等）を触れ、他の方がそれを触ると手にウイルスが付着、その手で目鼻口などを触ると粘膜から感染します。

さらに米国国立衛生研究所の調査では、人は無意識のうちに1時間に平均23回顔を触っているという調査データもあり、意識的に顔に触れないようにする心構えが必要ですね。



5. その他

【コミュニケーションツール】コロナ禍ではマスクを常用するため、聴覚障害者にとっては口話の読み取りが困難となり、コミュニケーションの妨げになることがあります。そんな時は、以前から販売されている電子メモパッドが有効な場合があります。最近では100円ショップでも取扱いがあり、簡単な筆談程度であれば、これでも十分効果的です。ただし電子メモパッドの実売価格は税込550円です。

【消毒関連】手指消毒用のアルコールや、次亜塩素酸ナトリウム水溶液の消毒液がドラッグストアで慢性的な在庫不足になる事態がありました。現在は在庫も潤沢になっていますが、次亜塩素酸ナトリウム水溶液は、一般的な台所用漂白剤（塩素系）を水で薄めることで簡単に生成することができます。

ご自身で水溶液を作る際は、直接手に触れないよう手袋を着用し、十分な換気を行ってください。出来上がった次亜塩素酸ナトリウム水溶液は、手指の消毒には適さないのでご注意ください。使用用途はドアノブや床などのウイルス除去を目的とし、使用後は水拭きも行ってください。

DVD教材「名前の変わる世界I～おじいちゃん、病院へ行く～」のご紹介



おじいちゃんの聞こえの世界がやっとわかった！
聞こえにくい世界は音が小さいだけじゃなかったんだ



難聴者の聞こえ方や、なぜ聞こえないかという点を具体的な映像と音声で学べる教材です。

以下にCLEAR JAPAN様からの紹介文を掲載させていただきました。

名前が変わる世界 I
～おじいちゃん、病院へ行く～

難聴の聞こえ方を体験できるDVD教材
(約12分)+イラスト付きワークシート1枚
DVD教材の特徴
・休憩時間10分でも学べる体感型教材
・聴者と難聴者の双方の立場を体験できる
・実践で活用できるワークシート付き

I.インタビュー II.体験 III.実践

多くの難聴者は相手がマスクをしていると、声がこもったり、口の動きが見えず内容を理解するのが難しく、人によっては「佐藤さん」が「あとうさん」と聞こえてしまうことがあります。

ただ、この難聴の聞こえ方を学ぶ機会がほとんどないため、難聴を自覚できない人や耳の遠い高齢者に対して間違った対応をしてしまう人が多く、今でも様々な場面で問題が生じています。

そこで、義務教育でも難聴の聞こえ方を体感できるよう、10年以上かけて、数百名以上の高齢者や難聴者、医療従事者から話を聞き、それををもとにDVD教材『名前が変わる世界』を作りました。

こちらの教材はマスクをつけた医師や看護師の声が耳の遠い高齢者にはどんな風に聞こえているかを映像で再現しており、見る人にも難聴の聞こえ方を体感してもらえるように工夫しています。

現在、「聞こえの教育」や「高齢者とのコミュニケーション」の教材として小中学校や大学、行政、企業等様々な場所で活用されています。

(「マスクを外して」と切り出しにくい心情や、相手の話を「たぶんこう」と推察し、あやふやなまま診察や検査を受ける高齢者たちの不安が伝わる内容が好評です。)

CLEAR JAPAN ホームページ
<https://clear-japan.com/>



CLEAR JAPAN SHOP
<https://clearjapan.thebase.in/>

公式ホームページ上にも、映像の一部が公開されておりますので、ぜひご覧になってみてください。

法律に基づく電話リレーサービスが2021年7月1日より正式スタート

2021年1月13日総務省より、電話リレーサービス提供機関として指定された(一財)日本財団電話リレーサービスが、法律に基づく電話リレーサービスを2021年7月1日より提供する予定であることが発表されました。

サービス開始の7月1日までは、現在サービス提供中の日本財団電話リレーサービス・モデルプロジェクトは継続利用が可能です。(一財)日本財団電話リレーサービスのホームページ内には、電話のかけ方の説明が掲載されていますが、これまでの一般通話に加え、「緊急通報」、「電話を受ける方法」とあり、緊急通報と聴覚障害者が電話を受けられるようになる事が伺えます。まだまだ「準備中」と表示されている部分も多く、今後の情報公開が期待されます。

また、24時間365日対応を実現するには、通訳オペレーターの確保や養成等の諸問題があるようですが、サービスが途切れることが無いようスムーズに移行できることを願います。

(一財)日本財団電話リレーサービスのホームページ <https://nftrs.or.jp/>



※イメージ図



生活講座開催（今年もやります しめ縄づくり）12月13日（日）

毎回、12月初旬に開催している“しめ縄づくり”。今回もコロナウイルス感染対策を実施し、無事開催することができました。

本物の藁（わら）で始めから作ることの楽しさや難しさが口コミで広がったのか、申し込みがいつも以上に多く、普段見られない顔触れとなりました。

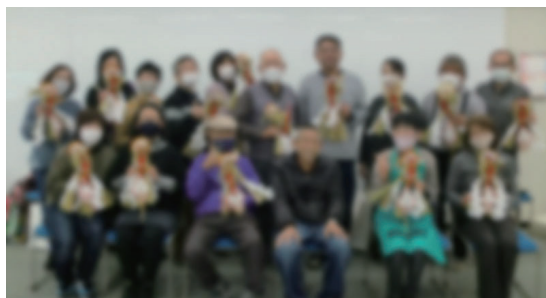
中には常連の参加者もいらっしや、1年ぶりですがしっかりとコツを覚えており、器用に藁を編み込んでいる様子も見られました。

最近では、ホームセンターなどでしめ縄を“買う”事が多いですが、自分で始めから“作った”しめ縄を飾るのも風情があるものだと思います。

最後に完成したしめ縄をもって集合写真を撮影させていただきました。例年の画像と違うのは皆さんマスクをしているという点です。

新型コロナウイルスの早期終息と、マスクを必要としない日常が一日でも早く戻って欲しいですね。

参加された皆さん、お疲れさまでした。



※画像加工あり

動画公開の効果

コロナ禍でも自宅で手話学習ができるようにと公開を始めた“初級者向け手話動画シリーズ”2月現在で12本を公開することができ、動画のチャンネル登録者数も今年1年で急激に増加し400名を超えました。さらに動画は視聴回数が記録されるため、どの動画が皆さんに見られているのか、数字として一目瞭然でわかります。

公開作品の大半は1,000回以上再生され、最高再生回数は4,000回を超える作品も出てきました。こうして実行したことに一応の効果が見られたのは、大変嬉しい限りです。

協力していただいている撮影モデルの方々にも、この場を借りて御礼申し上げます。

今後も内容を充実させ、皆さんに見ていただける作品作りを心掛けていきたいと思っています。



聴覚障害者撮影モデル募集

自主制作映像として、手話単語の動画や読み取りチャレンジシリーズをYouTube上に公開していますが、ご覧いただいていますでしょうか。

情報センターでは今後、読み取り教材用及び手話のデジタルアーカイブとして保存することを目的とした、手話映像の撮影に協力していただける聴覚障害者（ろう者）を募集します。※特に高齢ろう者の方を希望。

昔のろうあ運動などの記憶を語ってみませんか？。撮影場所は情報センター、もしくはお近くの会場（会議室等）を確保していただければ出向いたします。

ぜひ我こそは!と思われた方は、情報センターまでご連絡ください。



※情報センター
YouTube チャンネル



LINE



facebook



ブログ

左のQRコードを利用すると、情報センターのブログ、LINE、Facebookに簡単にアクセスできます。ぜひご利用下さい。

